

貸借対照表

(2025年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|-----------|------------|-----------|------------|
| (資産の部) | | (負債の部) | |
| 流動資産 | 8,968,153 | 流動負債 | 6,913,763 |
| 現金及び預金 | 232,128 | 買掛金 | 3,902,379 |
| 受取手形 | 4,787 | 短期借入金 | 800,000 |
| 売掛金 | 7,968,115 | 1年以内リース債務 | 8,404 |
| 契約資産 | 346,303 | 未払金 | 588,453 |
| 貯蔵品 | 224,345 | 未払法人税等 | 199,009 |
| 前払費用 | 17,853 | 未払消費税 | 339,047 |
| 短期貸付金 | 156,099 | 未払事業所税 | 12,000 |
| 未収入金 | 11,095 | 契約負債 | 216,801 |
| その他の流動資産 | 7,425 | 預り金 | 84,720 |
| | | 賞与引当金 | 762,875 |
| 固定資産 | 6,821,930 | その他の流動負債 | 71 |
| 有形固定資産 | 3,824,125 | 固定負債 | 2,445,233 |
| 建物 | 1,492,447 | 長期借入金 | 1,000,000 |
| 構築物 | 149,189 | 預り敷金保証金 | 7,710 |
| 機械及び装置 | 442,153 | 退職給付引当金 | 1,398,570 |
| 車両運搬具 | 3,376 | リース債務 | 27,858 |
| 工具器具及び備品 | 76,392 | 資産除去債務 | 11,094 |
| 土地 | 1,466,684 | | |
| リース資産 | 32,008 | 負債合計 | 9,358,997 |
| 建設仮勘定 | 161,872 | (純資産の部) | |
| 無形固定資産 | 30,845 | 株主資本 | 6,431,085 |
| 電話加入権 | 0 | 資本金 | 100,000 |
| ソフトウェア | 29,826 | 資本剰余金 | 100,000 |
| その他無形固定資産 | 1,018 | 資本準備金 | 100,000 |
| 投資その他の資産 | 2,966,959 | 利益剰余金 | 6,231,085 |
| 投資有価証券 | 0 | 利益準備金 | 24,903 |
| 関係会社株式 | 1,477,942 | その他利益剰余金 | 6,206,182 |
| 出資金 | 20 | 別途積立金 | 2,723,202 |
| 長期前払費用 | 262,534 | 繰越利益剰余金 | 3,482,980 |
| 保証金 | 393,461 | 純資産合計 | 6,431,085 |
| ゴルフ会員権 | 57,600 | | |
| 繰延税金資産 | 775,400 | 負債・純資産合計 | 15,790,083 |
| 資産合計 | 15,790,083 | | |

(注1) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(注2) 当期純利益(2025年3月期) : 404,383千円

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

・・・・・・・・ 移動平均法に基づく原価法により計上しております。

(2) その他有価証券 ・・・・・・・・ 市場価額のない株式等については、移動平均法に基づく原価法により計上しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により計上しております。

(1) 貯蔵品 ・・・・・・・・ 先入先出法により計上しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物 ・・・・・・・・ 定額法により計上しております。

上記以外の有形固定資産 ・・・・・・・・ 定率法により計上しております。

但し、2016年4月1日以降取得の建物附属設備及び構築物については、定額法により計上しております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

ソフトウェア ・・・・・・・・ 自社利用のソフトウェアについては、定額法により計上しております。

なお、償却期間は、社内における利用可能期間（5年）であります。

上記以外の無形固定資産 ・・・・・・・・ 定額法により計上しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 ・・・・・・・・ リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個々に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（19年）による定額法により費用処理しております。

5. 収益及び費用の計上基準

商品又は製品の販売に係る収益は、主に卸売又は製造等による販売であり、顧客との販売契約に基づいて商品又は製品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、商品又は製品を引き渡す一時点において、顧客が当該商品又は製品に対する支配を獲得して充足されると判断し、引渡時点で収益を認識しております。

保守サービスに係る収益は、主に商品又は製品の保守であり、顧客との保守契約に基づいて保守サービスを提供する履行義務を負っております。当該保守契約は、一定の期間にわたり履行義務を充足する取引であり、履行義務の充足の進捗度に応じて収益を認識しております。

請負工事契約に係る収益は、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の合理的な見積りができない工事については、原価回収基準を適用しております。

6. その他計算書類の作成のための基本となる事項

グループ通算制度の適用

当社はグループ通算制度を適用しております。また、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。